

◆2019 アジアボート選手権 (=ARC) の感想

◇W4X 総括 担当：デンソーボート部監督三本和明

日本ボート界として、価値高い有益な派遣だった。主たる理由は3つ。

1. アジアボート界へのプレゼンスを高めた

今大会の日本選手団は50名を超え、開催国韓国に次ぐ規模になった。日本チームのARC派遣にかかった費用は各クルーからのヒアリングを積算すると約1200万円程度になる(JARA費用は含まず)。この程度の費用でこの規模(クルー数・日数・艇輸送含)のチーム活動が行えるのはとても効率的と評価している。社会人クルーの費用捻出元は、殆どが所属又は企業からの支援であり、これ程の支援を受けれる選手が多く育っていると受け取れる。

日本大規模選手団は、アジア各国へは日本ボートの地力を見せる事が出来た。

2. 日本選抜代表チーム (=squad) の次点選手に経験を積ませることが出来た

JARA主体の強化チーム(squad)には、平均1選手/年齢毎ほどしか在籍しておらず、U19・U23に関われなかった次点選手に海外レベルを経験させる機会極小であった。今回の派遣は、次点選手に経験与え自己強化の具体的イメージを植え付ける事が出来た。次の五輪サイクルでは、ARC経験者から多くのsquad入があると確信する。

3. 国内上位選手へ具体的な目標を示せた

出場選手レベルは、参加国のほとんどがsquadの選手団に対し日本はクラブチームレベルだった。日本全体の競技成績を見ると不足の声も聞かれるが、日本LW4Xは他国squadに勝利した。デンソーが任されたW4Xは5か国中5位であったが、デンソー4選手のErgo2000mは7'02"・7'10"・7'18"・7'23"。国内Ergo上位選手のクルーが日本を飛び出し、アジアで力試しをするという事は他の日本選手の指標になった。W4X選手は、レース後「更にフィジカルとテクニクを磨きたい」と向上意欲を見せている。今回の派遣は、選手の具体的な目標設計を助け向上心を刺激した、ので大成功と評価できる。

◇W4X 選手感想 担当：デンソーボート部キャプテン上総香子

忠州のコースは広大でよく整備され、観客として見ても良いコースだと感じました。

この大会は、私たちにとってシーズン最後の締め括りであり、また新しい挑戦でもありました。限られた時間の中で本番の直前まで微調整しながら、自分達の強みを生かすためにトライし続けました。

今回は一発決勝のためレース自体は1本ですが、3日前にタイムトライアルがありました。そのときの順位は4位でした。2000mのなかで何度も何度もアタックし続けましたが、前を走るクルーを捉えることは難しかったです。スタートから確実に前を走っていく上位3チームに勝負をしていくにはどうすればいいのか。戦うべきはスタート、相手が見えると

ころでコンスタントペースに入っていく。今よりももっとピッチ(回転数)高くスタートして、艇を早くスピードに乗せよう。決勝本番、わたしたちの挑戦でした。

決勝の日。最高気温は 14℃。肌寒い空気とよく晴れた日差しの穏やかな日となりました。課題にしていたスタート、私たちは積極的に飛び込んでいきました。「隣のタイはまだそこにいるぞ…！」必死のコールをかけあい、なんとかそのまま食らいついていこうとしました。しかし徐々に離されていく展開に。7分間のレース、もがき、出し尽くしましたが、力は及びませんでした。挑戦を 100%成功に繋げることは難しい。なにかを変えることは、また同時に違う変化も生むからです。

メダルに届かなかったのはとても悔しいですが、最後まで全力でアタックしたことには胸をはって日本へ帰りたいと思います。この悔しさ、ここで感じた難しさはこれからのオフシーズンでの成長に変えていきます。

海外での大会という貴重な経験をさせていただき、何不自由なくレースに挑めたのもたくさんの方のご支援・ご協力のお陰です。慣れない土地での心細さを感じる時、応援してくださる言葉、気持ちの暖かさに心救われました。